

商業

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
商 業	原価計算	4	3年次・J群	選 択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
原価計算（実教出版）		標準検定簿記問題集全商1級 原価計算		・2年次に「簿記」を修得している。 ・「財務会計Ⅰ」と同時履修。 ・四年制大学（経営学部等）の推薦条件になる場合がある。 ・就職で事務職希望の生徒に有利。

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1 学期	第1編 原価計算の基礎	第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記 第4章 材料費の計算	4	・原価と原価計算、製造業における簿記の特色としくみについて取り扱い、原価と原価計算に関する基礎的な知識と技術を習得させること。 ・材料費の計算と記帳、労務費の計算と記帳、経費の計算と記帳について取り扱い、原価の費目別計算に関する基礎的な知識と技術を習得させる。 ・原価計算表の作成、原価計算表と製造勘定との関係及び製造間接費の配賦を理解させる。 ・部門別個別原価計算の基本的な手続きの流れを理解させる。	1 2 3
		第2編 原価の費目別計算	第5章 労務費の計算 第6章 経費の計算 第7章 個別原価計算 第8章 部門別個別原価計算	5 6		1 2 3
		第3編 原価の部門別計算と製品別計算		7		1 2 3
2 学期	2 学期	第4編 製品の完成・販売と決算	第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引 第14章 標準原価計算その1	9	・総合原価計算の特色を個別原価計算との違いから明らかにし、月末仕掛品原価の計算法を習得させる。また、単純総合原価計算を中心として、等級別、組別、工程別総合原価計算について、それぞれの考え方と計算法及び記帳法を習得させる。なお、副産物等の基礎的な処理についても扱う。 ・製品の完成と販売に関する記帳法を習得させる。また、工場会計が本社会計から独立している場合の本社と工場間の取引の記帳法も扱う。 ・製造業における決算の手続きについて理解させ、製造原価報告書の作成方法を習得させる。 ・原価管理と標準原価計算、利益計画と直接原価計算について取り扱い、原価情報の活用に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	1 2 3
		第5編 標準原価計算の基礎	第15章 標準原価計算その2 第16章 直接原価計算その1 第17章 直接原価計算その2	10 11		1 2 3
		第6編 直接原価計算の基礎		12		1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

	3 学 期	検定問題練習 家庭学習	1 2 3	・基礎的問題から検定模擬問題、過去の検定問題を中心に分野別の問題を系統的に練習していくことによって、総合的な理解力を深める。	1 2 3
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能		2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○ 原価についての基礎的、基本的な知識を身に付け、製造業のコスト計算の方法や管理方法を理解するとともに、製造業における原価の基本的な考え方や計算方法を身に付けているか。		○日常生活の中で、自らコスト意識を持ちながら学習に取り組むとともに原価の必要性を理解し、基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、適切な判断力を養い、創意工夫しているか。	○観点別学習状況の評価を通してはかる。 ○企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら原価計算について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組んでいるか。
	手 段	・小テスト ・定期考査 ・ノート整理課題		・小テスト ・定期考査	・授業態度 ・提出物
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		・考査は年4回実施。各回とも考査点70%、平常点30%で成績を評価する。 ・平常点は、授業態度、提出物の状況、演習作品の内容である。		
	学習上の留意点	・授業の進度が速いので、毎時間の授業を大切に学習すること。 ・検定前や長期休業中の補習に欠席しないこと。 ・6月（全商）、1月（全商）に検定試験が実施される予定。			